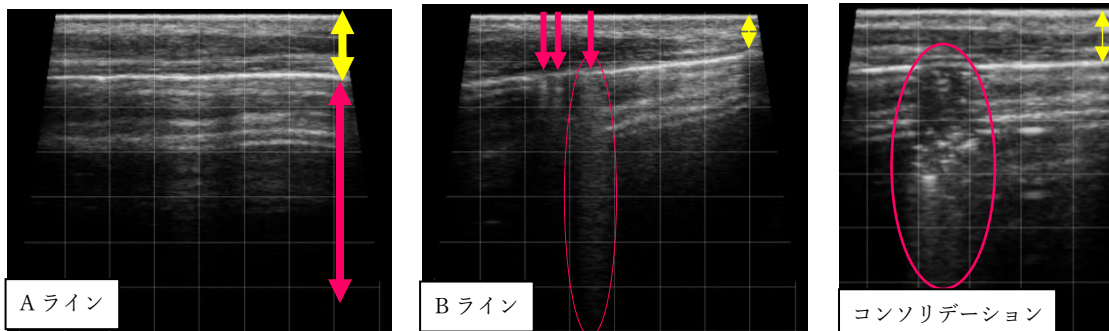


○肺の超音波診断について

24年5月依頼、M情報をサボっていました。そして24年10月にもアメリカの視察に行かせていただき、『アメリカ視察報告 Vol.1』に戻りました。申し訳ございません。

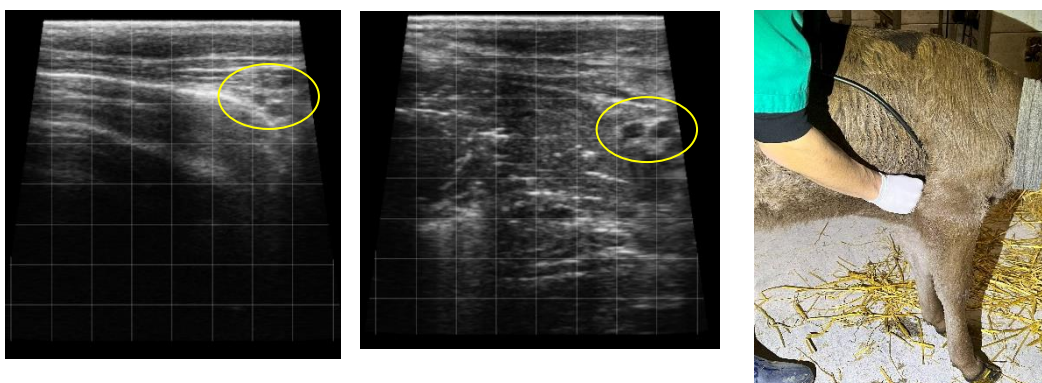
前回のM情報では、肺の超音波検査における正常と異常がある場合において、どの様に見えるかが違うかを理解いただけたものと思います。今回の視察でも肺エコーに関して、勉強させていただきましたので、その報告をさせていただきます。以下は左図からAライン、Bライン、コンソリデーションについて説明したものです。今後も耳にするかと思うので覚えておいて損はないかと思えます。



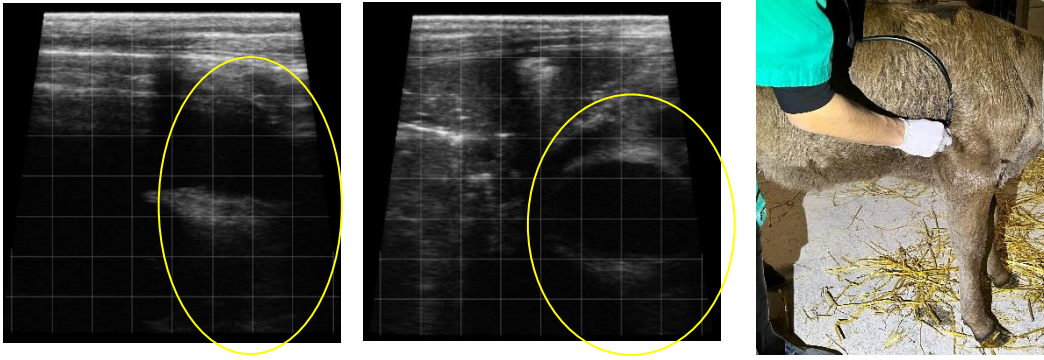
○肺の超音波検査におけるランドマークについて

肺炎における超音波検査では罹患しやすい肺葉を描出することで、その症例に対する理解が深まるものだと思います。狙った肺葉を描出するために、ランドマークを使用して、超音波検査を実施していきます。

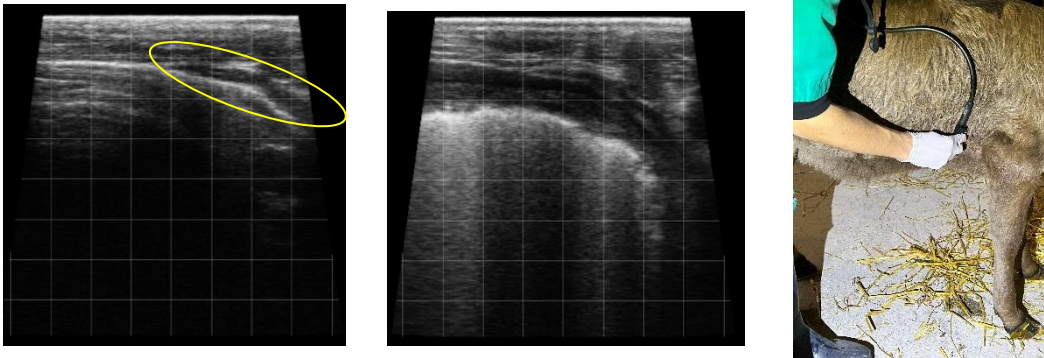
肺の超音波検査では2.5mmほどの病変も見つけることができます。コンソリテーション（容積減少を伴わず、肺血管辺縁を覆い隠す肺野の吸収値の増大）があるかないかでスコア分けを行います。スコア0を正常とし、スコア3では1つの肺葉に病変（コンソリテーション）、4では2つ・5では3つ以上の肺葉に病変が認められた場合とするそうです。以下、ランドマークに黄色丸で目印をつけています。



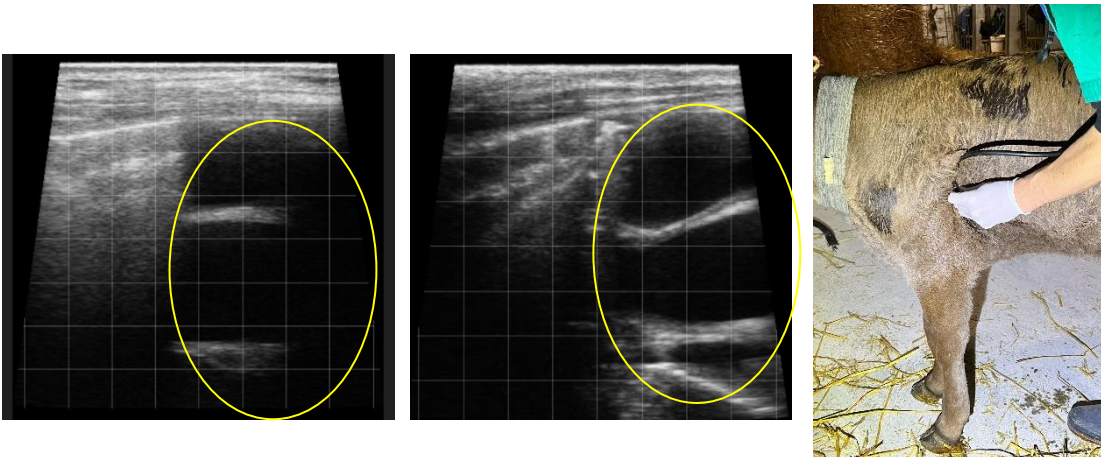
- 左図：右肺前葉前部のランドマークの内胸動脈・静脈と正常な肺葉で見られるAライン
- 中央図：右前葉前部全体にコンソリテーションが認められる
- 右図：右前葉前部描出の際のプロープの場所



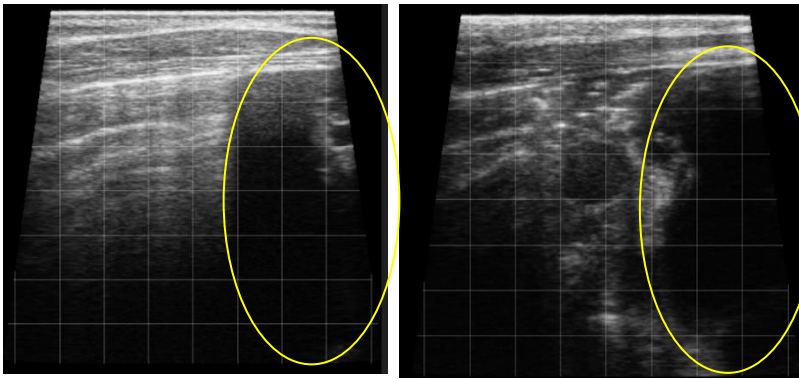
左図：右肺前葉後部のランドマークの**心臓**と正常な肺葉で見られる A ライン
 中央図：右前葉後部全体にコンソリテーションが認められる
 右図：右前葉後部描出の際のプロープの場所



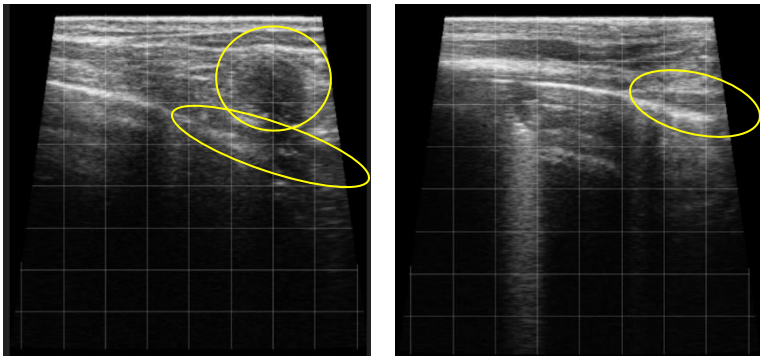
左図：右肺中葉のランドマークの**胸膜の逸脱**と**肋軟骨接合部**および正常な肺葉で見られる A ライン
 中央図：右中葉全体にコンソリテーションが認められる
 右図：右中葉描出の際のプロープの場所



左図：左肺前葉前部のランドマークの**心臓**および正常な肺葉で見られる A ライン。第三肋間から描出する。
 中央図：左前葉前部の心臓に隣接する部分にコンソリテーションが認められる
 右図：左前葉前部の描出の際のプロープの場所



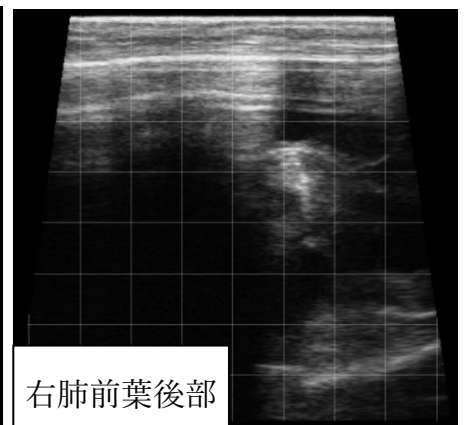
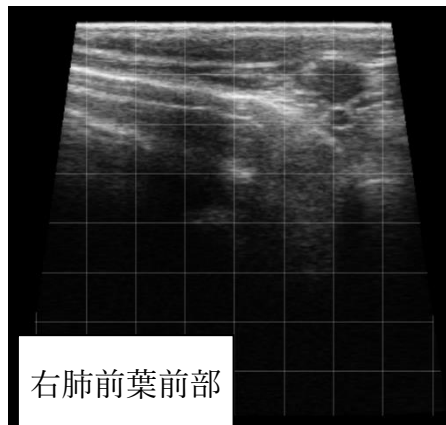
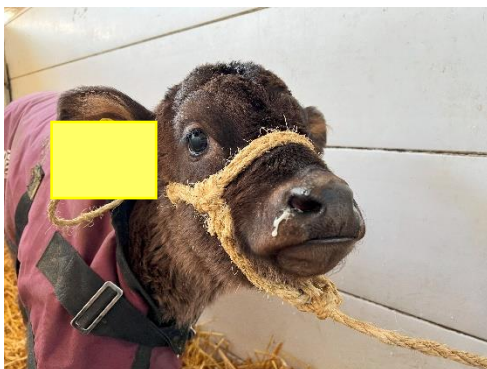
左図：左肺前葉後部のランドマークの**心臓**および正常な肺葉で見られる A ライン。第四肋間から描出。
 中央図：左前葉後部の心臓に隣接する部分の一部にコンソリテーションが認められる
 右図：左前葉後部描出の際のプロープの場所

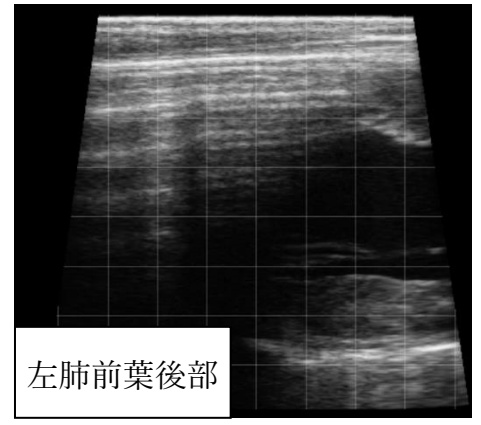
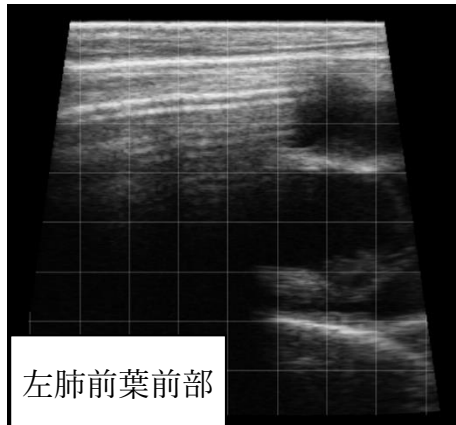
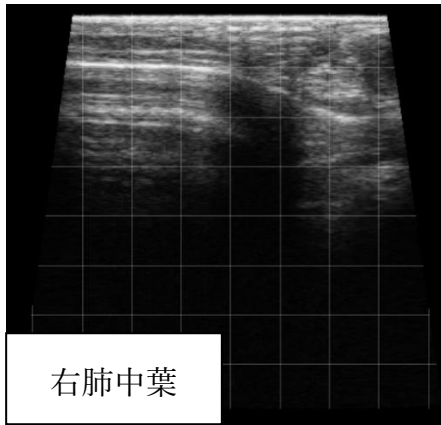


左図：左肺前葉後部のランドマークの**胸膜の逸脱**と**肋軟骨接合部**および正常な肺葉で見られる A ライン。第五肋間から描出する。
 中央図：左前葉後部一部にコンソリテーションが認められる
 右図：左前葉後部描出の際のプロープの場所

○鼻水出している子牛

少々難解ではあるかもしれませんが、肺炎における超音波検査では、ランドマークを理解することで病態を正確に把握できます。では鼻水を出している子牛に対して、超音波検査を行ってみるとどうでしょうか？白っぽい鼻水を出していると、念のため抗生剤を使って治療したくなってしまいますが…





5か所の超音波画像を載せましたが、どれもAラインのみでめちゃめちゃきれいです！これがわかっただけでも私にとっては有用でした。ただこの子牛が今後肺炎を発症するかは別です。寒さにより鼻水を出してして、風邪っぽいことは間違いなく、この状態が継続すれば、肺炎の発症は免れないと思います。臨床症状に注意して、経過観察する必要があります。次回以降も肺の超音波検査について、今まで聴診や検温で分からなかった部分についてご報告していこうと思います。